

『多様化する決済とプラットフォーム学』

～加速度的にサービス種類が増殖している今、何が起きているのか～

キャッシュレス決済がネットの登場でより進化している今
技術的要因がもたらした大変革を解き明かし、未来を予測する



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

情報学と複数領域を連携させ新しい価値創造を目指すプラットフォーム学。このプラットフォーム学を扱う京都大学「社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム」では、プログラムの一環としてセミナーを開催しています。第23回は近年インターネットの普及や通信回線の強化、さまざまなタイプのECの拡大によって加速度的にサービスが増殖しているデジタル決済がテーマです。貨幣による決済は紀元前から存在すると言われるほど、長い歴史を有する決済手段は、人類の歴史の中で多様化し発展してきました。そして今、キャッシュレスでデジタルな決済手段が勢いを増して私たちの生活に根付き始めています。今回のセミナーではこの変化がなぜ“いま”起きているのか、技術的要因を解き明かしながら、より利便性の高いシームレスな消費生活のイメージや今後期待されるAI等を取り入れた高度な決済技術がもたらす未来について議論するとともに、意外に低い日本の利用率の低さなどギャップ要因にも触れていく予定です。

イベント概要

- 日 程：2023年11月1日（水）
- 時 間：16:45～18:45（履修生は19:15終了予定）
- 主 催：京都大学プラットフォーム学卓越大学院
- 協 力：京大オリジナル株式会社／株式会社角川アスキー総合研究所
- 事前応募制／オンラインセミナー（Zoomウェビナー形式※）

※セミナーご参加には、お使いのパソコンやスマートフォンで、Zoomへ接続できる環境を事前に準備いただく必要があります。



お申し込みはこちら
(11月1日12時締切)

登壇者

伊東史博氏 PayPay株式会社 経営推進本部 コーポレートコミュニケーション部 部長
鈴木淳也氏 モバイル決済ジャーナリスト
原田博司 教授 京都大学 プラットフォーム学卓越大学院 プログラムコーディネーター



KUSP
Kyoto University School of Platforms

京都大学
プラットフォーム学卓越大学院プログラム

セミナー登壇者



PayPay株式会社 経営推進本部 コーポレートコミュニケーション部 部長
伊東史博氏

2018年10月にソフトバンク広報からPayPayの広報責任者になり、サービス開始時から数々のキャンペーンやアプリケーションのUI/UXのPR、インシデント対応も含め、5年で約6,000万ユーザー、年間取扱高10兆円まで急成長した「PayPay」を支えてきた。J-フォン、ボーダフォン、ソフトバンクとそれぞれ全く違う企業文化のなかで通信キャリアの広報を担い、広報歴は20年を突破。日本のキャッシュレス推進に貢献する広報を目指す。



モバイル決済ジャーナリスト
鈴木淳也氏

国内Sierでシステムエンジニアとして勤務後、1997年よりアスキー（現KADOKAWA）で雑誌編集、2000年にプロフェッショナル向けIT情報サイト「@IT」の立ち上げに参画。渡米を機に2002年からフリーランスとしてサンフランシスコからシリコンバレーのIT情報発信を行う。2011年以降は、取材分野を「NFCとモバイル決済」とし、リテール向けソリューションや公共インフラ、Fintechなどをテーマに取材活動を続けている。



京都大学 プラットフォーム学卓越大学院 プログラムコーディネーター
原田博司 教授

京都大学情報学研究科教授。郵政省通信総合研究所（現 情報通信研究機構）を経て2014年より現職。5G、6G通信システム、IoT用通信システムの研究開発、標準化、実用化に従事。取得国内特許は250件以上。自身が開発したスマートメーター用無線システムWi-SUNは、全世界で数千万台導入されている。

●プラットフォーム学連続セミナーを毎月展開

プラットフォーム学とは、情報通信を扱う“情報学”と、農学・医学・防災、文系学術などの複数専攻領域を系統的に連携させ、新しい価値創造を目指す新しい学問です。このプラットフォーム学を扱う世界初の大学院である京都大学「社会を駆動するプラットフォーム学卓越大学院プログラム」では、世界を牽引する新しいプラットフォームを構築できる人材の育成を目標としています。

本プログラムでは授業の一環として、連携する企業や外部の講師を招いたセミナーを毎月開催しています。第23回の今回は「多様化する決済とプラットフォーム学」です。

●多様化する決済サービスはどこへ向かうのか、いま起こっている変化の分析と未来への展望

今回のセミナーはこの数年で一気に多様化してきている「決済」がテーマです。売買代金の支払いなど、経済取引におけるお金の受払いや証券の受渡しといった決済には長い歴史があり、時代の流れに合わせて変化してきました。しかし現在起こっていることは、これまでの変化とは比べものにならない加速度的な決済手段とサービスの増殖です。この多様化はなぜ“いま”起きているのか、技術的要因を解き明かしていくとともに、今後の展開の予測やその実現のために期待される技術・施策に迫ります。さらに、現状の課題や発展を阻害するギャップについても取り上げます。

決済のデジタル化は、インターネットの普及、通信回線の強化とECの拡大によってこの20年で大きく発展しました。さらに、個人単位に普及したスマートフォンへのNFCや高精細化したカメラの標準搭載、決済可能な通信距離の延長、通信速度・処理能力の向上による複数処理の実行によって、さまざまな種類の決済サービスが生まれています。サービスの乱立によって、私たちは日々の決済時に使う決済サービスを選択しなくなっています。今後はパーソナライズされた新たなサービスの登場や販売動向に応じたマーケティング戦略の立案、消費情報を基礎にした政策の立案など、決済データの連携・利活用によるデジタル社会の実現が期待されます。手に取るだけで実行される自動決済、リスクに応じて自動で清算される保険、家計や資産に応じて自動で変動する金利など、決済自動化の推進によるシームレスな消費生活について展望します。